

スモモの整枝剪定について

平成26年12月
果樹技術普及センター

1. 剪定を始める前に

- ①樹相診断(品種、樹齢、樹勢、結実量、地力など)を実施し、今年の生育状況をよく観察する。
- ②主枝、亜主枝が隣接樹と交差している場合は、誘引や縮間伐を行ってから剪定作業に入る。
- ③良い品質の果実がどこになるか理解しておく。
- ④安定した結実が得られるのは、短果枝及び花束状短果枝である。
- ⑤品種によって枝の発生や伸び方、樹の開張性、花芽の着生が異なるので、品種特性を十分理解してから剪定作業をする。

2. 整枝剪定の基本

- ①若木時代は主枝、亜主枝の発生位置、角度、樹勢に注意しながら整枝を進め、主枝、亜主枝、側枝のバランスのとれたガッチリした骨格形成を図る。
- ②樹形は2本主枝の開心自然形を基本とし、各主枝に対して、亜主枝を交互に配置する。
- ③作業効率や日光の有効利用を考えた枝の配置を行う。

3. 品種別の剪定の注意点

各品種とも先端の新梢が20~30cm以上伸びるように、弱い枝ほど強めに切り返す。

<ソルダム>

- ①樹勢は、開張しやすいので、主枝、亜主枝の骨格はやや立ち気味に形成する。
- ②花芽が着生しやすく、先端部が下垂しやすいので、結果枝の切り返しは強めに行い、太枝に近い部分に枝を発生させる。
- ③側枝間の距離をやや短くし、側枝は3~4年で切り返し、更新を常に心がける。
- ④枝の発生が少ないため、太枝が日焼けを受けやすいので、徒長枝などを利用し日焼けを防止する。

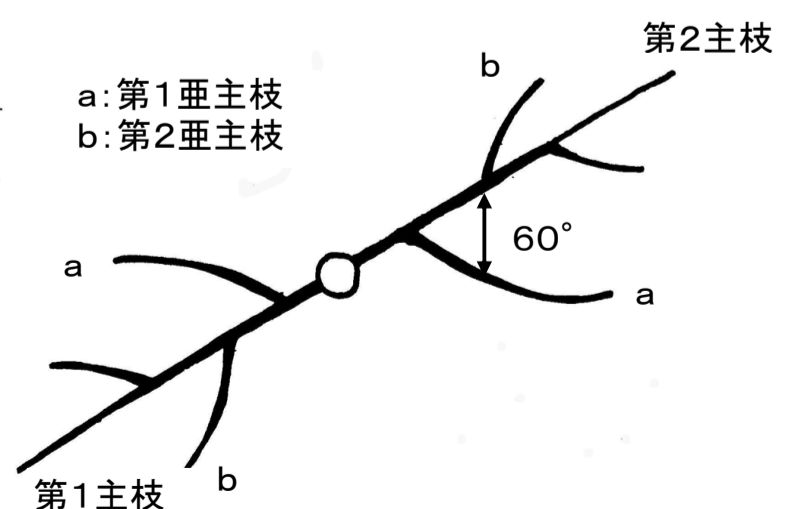
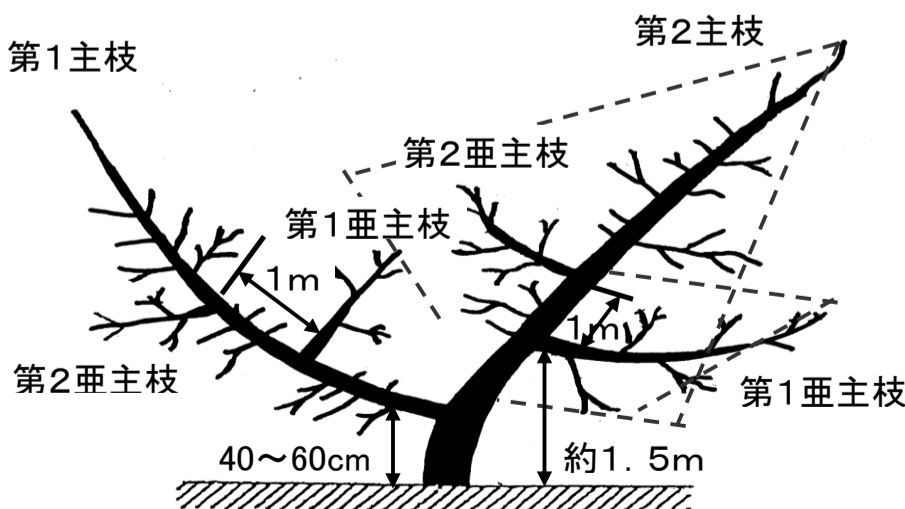
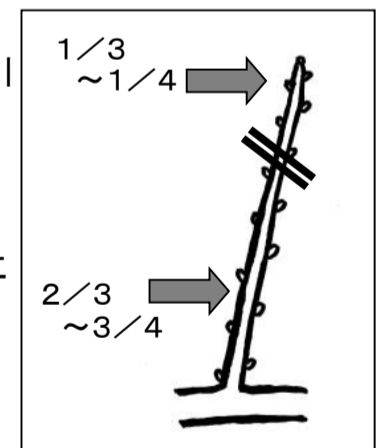
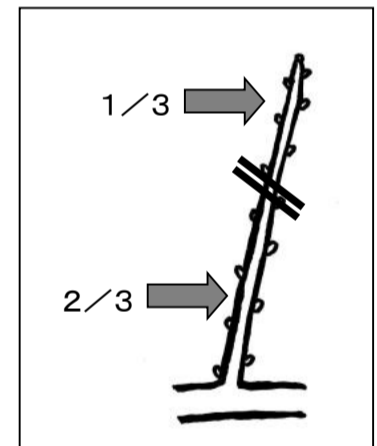
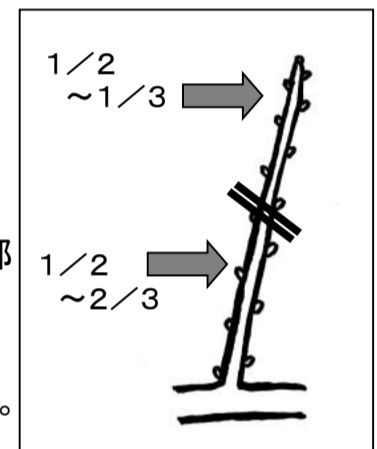
<大石早生>

- ①枝は直立的に発生し、成木になってもかなりの樹高になるので、若木より骨格枝の添え木による誘引を励行し、意識的に低樹高を考えた仕立てを行う。
- ②花芽の着生は普通で、短果枝タイプの品種であるが、枝の勢力に応じた切り返しを行い、花芽づくりと枝づくりのバランスをとる。
- ③短果枝が多くなるに連れて急激に樹勢が低下することがあるので、短果枝は適度な間引きと残す短果枝の先刈りを励行する。
- ④成木の太枝を剪除すると樹勢が衰弱したり、場合によっては枯死することもあるので、大きな傷口をつくる剪定は避ける。

<太陽・貴陽>

- ①直立的に枝が発生しやすく、樹姿はホウキ状になるので、若木から低樹高をねらった骨格枝の誘引を行う。
- ②全ての枝に切り返しを行うが、強すぎると発育枝のみとなりやすく、弱すぎると先端部まで花芽が着生し、枝が下垂しやすい。
- ③大玉品種であり高品質生産のためには、勢いのある新梢を発生させるよう、やや強めの切り返しに心がける。
- ④着色品種であるので、日光が下枝にも良く当たるよう枝の配置に注意する。

<長果枝の切り返しの目安>



開心自然形(二本主枝)の目標樹形